



松原かわら版

世帯数 1,220 戸
人口 2,993 人
高齢化率 28.1%
(令和 2 年 8 月 1 日現在)

満喫!! 夏休み

新型コロナウイルスの影響で今年の夏休みは普段と様相を変えていました。そんな中でも思い出作りができるような催しをと、公民館が自然体験会と収穫祭を企画しました。

小学生自然体験会

8月4日に行われた「小学生自然体験会」には16名の参加者が集まり、バスの定員半分以上の人数で国営アルプスあづみの公園(大町・松川地区)と鳥川溪谷に行きました。バスの中では、新型コロナウイルスの正しい知識を身に付けられるようなクイズをしたり、などなど合戦をしたりしながら楽しく道中を過ごしました。



では現地のガイドさんの解説を受けながら森の中を散策し、生えている木々の特徴や虫の生態などを学びました。鳥川溪谷では、俗世の暑さを忘れられるような冷たい清流を感じながら、持参した水鉄砲で水をかけ合いました。

帰り道に牧場の直売所に立ち寄り、ソフトクリームを食べ、大満足のうちに自然体験会が終わりました。



小学生は、凝った食材に手間ひまをかけた。

収穫祭 みんなで

「バック・クッキング」

採れたて野菜で、美味しいカレーができました。

8月11日の10時から13時まで、小学生(中高学年)を中心に総勢15名が集まりました。今年はコロナの影響もあり、人数を限定しての開催です。

まずは、公民館のミニ農園での収穫を二人一組のチームで競い合います。ジャガイモ・人参・茄子・ピーマン・トマト・枝豆など、瞬く間にバケツいっぱいになりました。

いよいよ調理。児童・生徒のみなさん、男女の別なく、みんな包丁さばきが上手です。ふだんの親御さんの愛情あふれる訓練の賜物でしょうね。

調理法はいたって簡単。野菜類をやや細かく刻んでビニール袋に入れ、これにシーチキンと水とカレールーを足して、よく揉み込む。空気を抜いて袋をきつく縛って、熱湯の中にいれるだけ。ご飯も同様にしてつくりまわす。非常時

け、じっくり数日間煮込んだ特製カレーが自慢です。



バック・クッキングなんてとひそかに軽んじていましたが、結果は予想に反し、とても美味・美味。夏らしいさわやかな野菜カレーを堪能しました。やはり、自ら収穫した新鮮な食材に、小さな大料理人の一所懸命な情熱が煮詰まった出来上がりの方に、参加者の皆さんありがとうございました。また、介助のボランティアの方々もご苦労様でした。

からくり時計 復活間近!!

地区内の特技を持ったメンバーが時計台を修理しています。詳しい修理の様子はFacebookで「松原モールぷるじえくと」と検索してみてください。



▲ロバ、犬、猫、ニワトリの人形たちを取り外し、内部を清掃しました



▲それぞれの人形にはいくつもモーターが内蔵され楽器を奏でます
個々の部品をばらして洗浄と補修をしてから塗装します



人権講座
近代ヨーロッパに生きた
画家の苦悩と選択

今年、コロナ禍で多くの町内行事が中止に追い込まれた中、8月25日に人権講座が開催されました。参加人員は自分も含め8名に公民館職員3名を合わせた11名でした。全員体温チェックとマスク着用で、地区公民館からバスに乗り、下諏訪町のハーモ美術館に向かつて出発しました。

「近代ヨーロッパに生きた画家の苦悩と選択」と表題がついていましたので、苦悩とは何か、選択はどうしたのかを自分なりに考えました。当時のヨーロッパは、絵画は宗教画と写実的な遠近法と、光の正確な表現を求める時代でした。そんな中で日本の浮世絵、版画を見た画家が、顔が輪郭線によって描かれており人物画の背景がなく一色に塗りつぶさ



りつつさ、顔の大きさが遠近法を無視した表現の光の表現が全くない、だけども心がワクワクする、新しさを感じるような画法を取り入れるようになってきました。表現の自由に感動した画家がヨーロッパのルールで作品を作り続けるか、自由な表現で作品を制作するか、選択に苦悩したと思います。そんな部分

が今回のテーマかなと思いました。ハーモ美術館は、富嶽三十六景の諏訪湖から望んだ富士の版画の場面が再現できる場所に立地されています。最初に案内された場所が2階のエントランスで版画が再現できるように、窓枠や椅子の位置が設定されています。当日富士山は見えませんでした

が、冬の空気の澄んだ晴れた日であれば、版画の富嶽三十六景の諏訪湖よりの富士が体感できると思います。展示場には表現の自由を選択した画家の作品がたくさん展示されています。美術館の学芸員は、その画家たちを素朴派と表現されました。ア

ンリ・ルソー、ジョルジュ・ルオー、マルク・シャガール、パブロ・ピカソ等です。展示されている作品の中で、グラシム・モーゼスは初めて見ました。75歳より作品を作り始めて100歳まで作品を作り続けたと説明を聞き、私はま



だ75歳になつていないのですごいと思います。芸術には、年齢は関係ないと思います。ハーモ美術館は絵画に興味があり自由な表現を感じたい方にお勧めです。尖石縄文考古館では、レプ

リカではない本物の「縄文のビーナス」、「仮面の女神」を見ることができました。9月より別の場所に貸し出されるそうです。本物が見られてラッキーでした。館内の展示の中で縄文人の寿命は31歳と表記されていました。私たちはなんと長生きでしょうか。以前にテレビ番組でアマゾンの原住民も、寿命が35歳と取材記者が言っていたのを思い出しました。狩猟民族の生活をすれば現在でも5000年前でも同じ結果になると思います。食料を栽培することがいかに重要か考えさせられました。今回の行事を企画された方に感謝申し上げます。(編集委員)



縄文のビーナス



仮面の女神

こどもの安全を守る
小中学校\消毒\ボランティア

夏休みが明けてから、明善小・中学校では消毒ボランティアの活動が始まりました。廊下や階段の手すり、トイレ、家庭科室などの特別室を中心に、松原・内田・寿台地区の有志の皆さんが放課後に活動しています。多くの方に協力いただいておりますが、サポーターの人数はまだまだ足りていません。地域の子どもたちの安全を守るために一緒に活動してみませんか？興味のある方は松原地区公民館までご連絡ください。



コラム

お盆にお墓参りに行って

きた。私はおじいちゃん子だった。働く両親の代わりに保育園の送迎も、一緒に寝るのも、魚や虫の採り方を教えてくれたのも祖父だった。長身でスタイルが良く、無口だったが怒ることもなく、優しい眼差しでそばにいてくれる祖父が大好きだった。亡くなる数ヶ月前、祖父の部屋から大きな声が聞こえた。何かと思つて行くと、私の名前を呼んで、いなくなったから探しに行くと言つてきかない。私はここにいますと何度言つても納得しなかった。きつと祖父は、幼い姿の私を探していたのだらう。手を繋いで歩いていた。あの頃の私を。そう思うと涙が出てきた。今の私をわからない悲しさと、思うように動かない体を必死に起こそうとしてまで、探そうとしてくれる祖父の愛の大きさに。九十五歳で亡くなったが、大きな病氣もせず、最後まで優しく穏やかな祖父だった。祖父との思い出は今も忘れない。今も私は祖父が大好きだ。何十年後また会えた時、手を繋いで歩くのを楽しみにしている。(編集委員)